



企業編



株式会社
サンクローバ

国見町野田3140番地(国見工場)
国東町安国寺721番地(国東工場)
設立 ▶ 昭和43年12月 従業員 ▶ 89名

創業者の武村元七さんは、繊維産業の盛んな大阪市でニット製品製造卸売業

を始め、肌着製造で事業を拡大してきました。その後、量販店との取り引きが始まり、生産量を増加させようと、工場用地を探しました。昭和43年12月、大分県の熱心な誘致により国東町安国寺に国東工場を建設し、紳士用の薄手の肌着を中心に製造するようになりました。また、その3年後には、国見町野田に国見工場を建設、婦人用の薄手の肌着を製造しました。昭和50年、生産の効率化を図るため、株式会社サンクローバを設立しました。紳



▲生地の検反

士用肌着の国東工場と婦人用肌着の国見工場を中心に平成元年には、最大の5工場体制となりましたが、徐々に国内での生産コストが高騰したため、海外への生産委託に移行していきました。平成17年には、国内の生産拠点はサンクローバ(国東工場と国見工場)のみで行うようになりました。そして、現在では大量生産の肌着は海外に生産委託をし、付加価値のある肌着については、紳士用を国東工場、婦人用を国見工場で生産しています。



▲縫製作業



▲自動裁断機での作業

現在、サンクローバが製造する付加価値のある肌着は、年間100万着生産していますが、人気があり生産が追いつかない状態となっています。生産量を増やすため、以前から外国人研修制度を利用して、人員の確保に努めています。が、根本的な解決にはいたっていません。

今後は、将来の縫製作業を担っていただく市内に住む30代から40代の女性のみなさんに、縫製作業の魅力を伝えていくこと、また、海外の生産技術が向上しているのを、それに負けない技術力の向上に努めていきたいと考えています。



▲ハンガー付け作業



▲検針作業

第一次産業編



▲左から興一さん、奈津子さん、功さん

末廣 功さん
奈津子さん
興一さん

国東町富来浦
長年にわたり漁業を営む

末廣功さんは、代々漁師の家に生まれましたが、高校卒業後、町内の事業所に就職しま

した。20代後半になり自分の将来を考え、父の興一さんと一緒に漁に出ることを決意しました。功さんが漁に出るようになった1980年代後半は、よく魚が獲れ、魚の値段も高く、景気の良い時代でした。漁の経験はありませんが、父に教えを乞いながら、国東の漁業最盛期を体験しました。しかし、徐々に魚の獲れる量が減っていき、8年前から、母に代わって妻の奈津子さんが船に乗るようになり、これまでの漁を見直すことにしました。そ



の中で、一番魚が獲れなくなっていった2月から5月の漁を変えることにしました。そして、2月に青ノリ漁、3月と4月はワカメ漁、5月にはヒジキ漁を行うことにしました。海藻漁を始めるにあたり、課題になったのは出荷するまでの加工作業でした。海藻をきれいにするためには、かなりの労力が必要となり、船から降りた母も加わり、家族総出で加工作業をするようになりました。そして、主力のタコも、そのまま市場で売れるものでも加工するようになりました。興一さんは、「息子が漁と一緒にしてくれて嬉しかった。最初に良い思いをさせられたが、その後は厳しいことばかりだった。その中で、いろいろ工夫して打開しようと努力しているの、体が続く限り協力したい」、奈津子さんは、「私は、料理するのが好きで、今は国東町内の居酒屋で腕を磨いています。いずれは主人やお義父さんが獲った魚や海藻を使った料理を出せるお店を持つのが夢です」。功さんは、「今の漁業を取り巻く状況は厳しいものがあり、続けていくには、獲ったものに付加価値を付けていく必要があります。妻の夢の料理屋と家族で始めた加工



工にこれからもっと力を入れていきたい」と語っています。



商工会編



バードハウス
ミック

武蔵町成吉
平成24年3月から
鳥専門のペットショップを始める

創業者の平塚高広さんは、旧武蔵町商工会からの紹介で地元酒店を買い取っ

て改装し、平成15年からコンビニエンスストアを営んでいました。中武蔵地区の人達が買いたれた品物を補充できる店として、長年にわたり利用されてきました。しかし、大手コンビニエンスストアが進出してきたことなどにより、同店舗を利用した新規事業を模索するようになり、家族と協議した結果、子どもの頃から鳥好きだったこともあり、鳥専門のペットショップを思い浮かべました。平成24年3月に開店し、最初に取り組んだのは、キンカ鳥を繁殖させ



▲キンカ鳥

ることでした。繁殖したヒナはホームページやブログで紹介して販売しました。その後、インコやセキセイインコ、十姉妹など観賞用鳥の種類を増やしていき、羽衣セキセイインコなど全国的に見ても珍しい鳥も飼育するようになりました。そして、ヒナなどの成体だけではなく自分でふ化させたい方のために、有精卵の販売をすることになりました。また、チャボや鶏など食用の家畜を観賞用の鳥として飼ってもらいたいと考え、海外の珍しいチャボなどを取り扱い、同時に鳥骨鶏の品種改良にも取り組みました。それは、大分県には、ふさふさとした美しい毛を持ち、たくさん卵を産む「おおいた鳥骨鶏」という品種がいたからでした。まず、白い毛に映えるように、掛け合わせる品種を世界中から探し、青い耳を持つ品種を見つけました。それから、試行錯誤をしながら白いふさふさした毛とそれに映えるアオイ耳を持つ「むさし鳥骨鶏」が完成しました。今では、ネットオークションで卵も成体も高値で取引されるようになりました。



▲オカメインコへの餌やり



▲コザクラインコ

今後は、自分が鳥骨鶏の品種改良で培ってきた知識をもとに、国東市の畜産農家が儲けられるような地元ブランド鳥を開発し、地域経済に貢献していきたいと考えています。



▲むさし鳥骨鶏